



# かたくい

学校教育目標 夢ふくらませ 心かがやく ～ えがお さいこう ～

令和6年度  
第4号  
4月19日

## お待たせしました くりっこチャレンジ2024 スタートします！

「くりっこチャレンジ」の目的は、西明寺小学校で大切にしている『夢をかなえる4つの力』①課題に挑戦する（諦めないで努力する・解決方法を工夫する）②自分を知る（自分に自信をもつ・自分のいいところに気づく・やりたいことを見つける）③みんなと協力する（挑戦する友だちを応援してあげる）④将来のことを考える（目標に向かって希望をもつ）を具現化するために、2020年6月から行っている活動です。

子どもたちの取り組みを、みんなで励まし、応援し、結果だけでなくプロセスも認めてあげることで、「がんばってよかったな」「できるようになった」「次もがんばってみよう」という気持ちをもたせたいと考えています。

この活動の特徴として「チャレンジを応援する人」を設定しています。この応援する人は、子どものがんばりを励ましてあげるとともに、挑戦のプロセスや結果を認めてあげる役割も担っています。子どもたち同士であれば少なくとも3名、大人であれば1名以上を設定することにしています。子どもたちのチャレンジする内容によっては、お家の方に応援する人を依頼することもあるかと思えます。チャレンジする内容も含めて相談に乗っていただければ幸いです。

また、チャレンジ内容の決定及びチャレンジ終了時には、次の3つ「結果よりもプロセスを」「もっと具体的に」「もっと質問を」を意識してお子さんに声をかけていただけるとありがたいです。

子どもをほめるときに大切なのは、能力や性格をたたえるのではなく、取り組んでいる過程での努力や挑戦した姿勢、やり方を工夫した点などに言及し、声をかけることです。例えば、満点をとったとき、「満点とるなんて、本当に頭がいいね!」と大袈裟にほめる代わりに、「満点をとれるまで努力してきたんだね!」というような声かけをしてあげましょう。これによって子どもは、もし次のテストで低い点数をとっても、あきらめるのではなく、柔軟にいろいろな方法を試すことで成功できるかもしれないとがんばれるようになります。

もちろん子どもが努力をしていた場面を見ていないとき、あるいはそのがんばりの様子を子どもから直接聞いていないときは、プロセスにコメントするのは無理があります。その場合は、見たままの具体的な感想を共有したり(もっと具体的にほめる：具体的なフィードバックをもらった場合のほうが、次のパフォーマンスに向けてモチベーションが自然と上がる。)、子ども自身に質問(「はい」か「いいえ」で答えられるような広がりのない選択解答形式ではなく、「チャレンジの中で一番大変だったことは何だった? どうしてそう思うの?」といった、会話のキャッチボールができるような自由回答形式の質問をもっとする。)を試してみましょう。

裏面のような「くりっこチャレンジ2024について」、【チャレンジの例】、【くりっこチャレンジ2024チャレンジカード】(記入例)を、本日、別紙にて配付いたしましたので、お子様と一緒に内容をご確認いただければ幸いです。なお、活動については、みんなで取り組んでみようと呼びかけてはいますが、あくまでも自発的な取り組みですので、子どもによっては、機が熟すまで待つことも必要になるかもしれません。各学級担任をはじめ、学校職員も子どもたちを励ましたり、相談に乗ったりしたいと思っています。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

### くりっこチャレンジマスターバッジ

